

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			・設備基準を満たしており、保育園と共同での園庭もある。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			・10人の利用者に対して、管理者と児発管以外の直接処遇職員を5人配置している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか			○	・スロープ、身障者用トイレを設置している。 ・階段、段差をなくすだけでなく、必要に応じて段差を積極的に利用し、子どもの危機管理能力の向上につなげている。 ・生活空間について、適宜パーテーションを使用するなど集中のしやすさへの配慮をしている。 ・自分の物の置き場所が分かりやすいよう、視覚的手掛かり(本人のマーク)を使うこともある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			・生活空間に、季節を感じられる飾りつけを意識して行っている。 ・活動内容によって、活動スペースを仕切り、個室を作るなどして活動をしている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			・毎月一回の事業所内会議、毎月2回の法人内会議にて、必要に応じて業務改善についての話し合いを行っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			・保護者向け評価表を活用したアンケートを昨年度より実施。保護者の意向を把握し、事業所内会議で改善案について話し合いを行った。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			・自己評価表の結果及びその改善内容等について、昨年度よりホームページで公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			・今年度、第三者による外部評価を実施。評価結果を職員間で共有し、改善策について話し合いを行い、できることから業務改善につなげている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか			○	・法人内研修を企画、実施している。また、研修に関する情報提供により研修機会の確保を行っている。しかし、全体的に外部研修への参加機会が少ない。 ⇒年度初めに各職員の研修計画を立て、研修への参加機会の確保を図る。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			・年度初めにアセスメントを行い、保護者から最新の情報を聞き取りするとともに、利用者や保護者の希望等を共有し課題を分析している。また6か月に1度はモニタリングを行い、保護者と課題を共有した上で児童発達支援計画を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			・一人一人の発達段階を把握できるよう、事業所内で統一したアセスメントツールを活用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか			○	・児童発達支援ガイドラインに示してある項目を確認しながら支援内容を設定しているが、「地域支援」に関する検討が不十分である。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			・定期的に職員間でモニタリングを行い、子どもの発達に応じた計画になっているのか振り返りを行いながら、支援計画に沿った支援が行えるよう心掛けている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			・担当者の発案を基に、職員間で情報を共有しながら活動プログラムの内容を検討し進めている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			・季節に合わせた行事や自然体験などの活動を取り入れている。利用者それぞれの発達に合わせた参加の仕方を工夫しながら、年間を通して様々な活動を行うことができるようにしている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			・恵の実保育園との統合保育を活かし、集団的保育を行う所と、個別支援が必要なところと、両方の視点からそれぞれの発達に応じて支援計画を作成している。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			・大まかな活動内容や支援の内容、役割分担等は、支援が始まる前までに打ち合わせをしている。しかし、その日の子どもたちの要望などにより活動内容が変わることもあり、その場で役割分担を変えることもある。	

チェック項目		はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点、課題や改善すべき点など
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか			○	・各担当者は、その日の支援の振り返りを毎日記録に残している。その日のうちに共有すべきことは、職員間で共有するようにしているが、細かな支援の振り返りの共有までには至らないこともある。後日、時間を作って共有をしている。 ・その日のうちに共有しておいた方がいい内容については、メール等を使い共有をすることもある。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			・各担当者は、その日の支援の内容や子どもの様子を記録に残している。記録をもとに、支援の振り返りを行ったり、子どもの発達を検証する材料としている。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			・半期に一度はモニタリングを行っている。ケース検討会議を開き、個々の支援計画の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			・主に児童発達支援管理責任者が出席し、情報の共有を行っている。必要に応じて、利用者に関わるその他の職員も参加できるようにしている。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか				・対象となる利用者なし。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか				・対象となる利用者なし。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか				・対象となる利用者なし。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか				・対象となる利用者がいなかった。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			・必要に応じて学校訪問をしたり書面の提出をし、情報共有を行っている。また支援学校の先生が事業所を訪問してくださり、利用者の様子を直接見ていただき情報共有をすることもあ
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			・月に一度、豊川市内の児童発達支援事業所が集まる会議に参加し、連携を図るとともに研修の場ともなっている。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○			・同法人内にある保育園と統合保育を行っており、日常的に障がいのない子どもとの活動が行われている。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか			○	・豊川市内の児童発達支援事業所が集まる会議があり、その会議の代表者が子ども部会に参加をしている。会議の中で子ども部会の報告を共有している。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			・日々の送迎の際に、一日の様子を報告している。また、保護者の要望に応じてやりとりノートを使い、書面での情報共有をしたり、また定期的に面談を行い共通理解を図っている。
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○			・必要に応じて母子通園を行っている。保育者の子どもへの関わり方を見て学び、また保護者が実際に関わる姿を見せていただく中で、関わり方のコツなどを伝えている。母子通園の後には振り返りを行い、家庭での子育てに活かせるようにしている。	
32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			・利用開始時、また継続利用の方は1年に一度説明をしている。	
33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			・児童発達支援ガイドラインに基づき支援計画を作成している。支援計画については、定期的な面談の際に説明を行い、保護者の同意を得ている。	
34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			・定期的な面談のほか、保護者の様子を気にかかけ、随時面談を行い相談に応じている。	

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			・定期的に茶話会を開き、保護者同士の交流の場としている。また、行事などの活動に保護者の参加を促し、保護者同士の交流の場としている。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			・契約時に、相談・苦情受付窓口や担当者、第三者委員などの設置を伝えている。相談や申し入れがあった場合、できるだけ速やかに職員間で話し合いの場を持ち、改善につなげるよう心掛けている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			・月一回のやまばとだよりを発行し、行事予定などを伝えている。普段とは違う活動については、随時お便りを作成し、活動のねらいや活動概要などを伝えるようにしている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			・書類は鍵のかかる書類棚で管理している。職員は、年度初めに守秘義務や書類の管理の仕方について周知をしている。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			・子どもとの意思疎通については、その子の発達に応じて伝え方の工夫をしたり、視覚的な手立てを利用するなど配慮をしている。 ・保護者への情報伝達については、口頭だけでなく書面により伝えたり、必要に応じて個別に丁寧な説明をするなどしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			・法人として夏祭りを行い、地域住民の方を招待したり、地域清掃に参加するなど、機会は少ないが地域との交流を図っている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか			○	・各マニュアルを策定してはいたが、内容に不十分なところがあった。今後、実働に合わせてマニュアルを整備し直し、周知をしていきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			・月1回、火災、地震、水害、竜巻を想定した避難訓練を実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○			・契約時、またその後は1年に一度、子どもの疾病や服薬状況、てんかん発作の有無、アレルギーの有無など最新の情報を確認している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか				・対象児なし
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			・ヒヤリハットがあった際は、すぐに関係職員、管理者、児童発達支援管理責任者で検証と再発防止について話し合う対策会議を行っている。また、その内容を記録し、職員間でも共有するようにしている。職員会議等で、再度情報共有する場を持ち、再発防止に努めている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			・主に管理者が虐待防止に関する研修に参加し、その後管理者より虐待防止に関する情報提供を行っている。今後は、管理者以外の職員が虐待防止の研修に参加できるよう計画をしていきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			・身体拘束になりうる可能性がある場合は、保護者への確認や説明を行い、支援計画に盛り込むようにしている。